



一般財団法人日本ITU協会 創立50周年を迎えて

「皆様と50年 次の50年へ！」 — Towards next 50 years! —

1971年9月1日に創立された一般財団法人日本ITU協会は、ITUジャーナル2021年9月号発行日に、50周年を迎えます。これもひとえに、半世紀にわたって多くの皆様に支えられたおかげです。心より御礼申し上げます。この記念すべき日に、新たに私共の役目を認識し、これからの50年に向かって歩んでまいりたいと存じます。本号は、創立50周年記念記事をお送りいたします。 ITUジャーナル編集人



一般財団法人日本ITU協会 理事長 やまかわ てつお 鉄郎

一般財団法人日本ITU協会は1971年9月に国際電気通信連合 (ITU) の活動への協力などを目的として財団法人日本ITU協会として創立され、今年創立50周年を迎えることができました。これもひとえに半世紀の長きにわたって当協会を支えていただいた総務省、賛助会員各位や職員の皆様など多くの関係者のおかげです。この機会にあらためて深く感謝申し上げます。

感染拡大が続く新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) によって生活は大きく変わり、テレワークやテレビ会議、オンライン授業などICT (情報通信技術) を活用したライフスタイルが急速に普及しました。デジタルトランスフォーメーションの進展によってICTは今後より一層重要な社会基盤となり、持続可能な地球環境や国際社会の構築そして人類共通の目標であるSDGsの実現に大きく貢献していくでしょう。当然ながら、周波数の分配や電気通信技術の標準化、開発途上国における電気通信分野の開発支援などの活動を行うITUの活動はますます重要になっていくと考えられます。

個人的な話で恐縮ですが、郵政省入省直後でまだ若手といわれていたころ、協会の出版物 (「国際電気通信連合と日本」や「ITU研究」など) が電気通信行政の教科書のようなものでした。濱田純一先生 (当時東京大学助手・助教授) のメディア論や、勝部日出男さん (当時KDD) の米国通信制度論 (VANなど) はよく覚えています。

その後、国際政策課長を仰せつかり協会とのご縁が復活したのは、内海善雄ITU事務総局長 (当時) がWSIS (世界情報社会サミット) の開催に全力を注いでおられたことです。国際部長だった2007年には初めてITU本部の理事会

に出席しました。とにかく広い会議場に参加国の多さ、毎日の各国とのミーティングで、そして近くの和食レストランでいただく天ぷらの衣の厚さが印象的でした。しかし、総務審議官のときに全権委員会議 (2010年) でグアタラハラに出張して、ジュネーブの天ぷらは実はかなりレベルが高かったことを知りました (ちなみに今では少なくとも欧州の和食の水準は素晴らしいと思います)。

たまたま最近、濱田先生 (元東大総長・名誉教授) や勝部さん (株ナレッジカンパニー代表取締役CEO) にお会いする機会があって、昔読んだ協会の出版物を思い出していたときに、この原稿を書く機会をいただいた次第です。よくできたお話のような、何かのご縁のような。

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) により、ITU関係の会議も基本的にテレビ会議になっているようです。しかし、5Gさらには6Gの実現に向けたIMT用周波数の拡大やIoTのセキュリティ管理、さらには量子通信の実現に向けた量子鍵配送 (QKD) 技術の標準化など、ITUを舞台に検討しなければならない戦略的に重要な課題は山積し、世界は感染拡大のなかでも着実に動いています。2022年6月にはITUの歴史上はじめて、WTDC (世界電気通信開発会議) がアフリカ大陸 (アジスアベバ) で行われる予定で、1959年以来一貫して理事国としてITUを支えている我が国には、デジタルトランスフォーメーションによるSDGsの実現に向けてさらなる貢献が期待されています。当協会も、ITUを重要な戦略の場とお考えの皆様の期待に応えるべく、より一層努力していきます。今後とも皆様のご指導ご鞭撻のほどよろしくごお願い申し上げます。



総務大臣 祝辞



総務大臣 **武田 良太**
たけだ りょうた

一般財団法人日本ITU協会の創立50周年に心からお祝いを申し上げます。

また、50周年というこの大きな節目に、名誉ある賞を受賞される皆様は、これまでITUの活動を通じて、世界の情報通信及び放送分野の発展に顕著な貢献をされてこられたと伺っております。これまでの皆様の取組みに対して、改めて感謝の意を表します。

日本ITU協会は、1971年9月1日に創立され、以来50年、電気通信及び放送分野における国際電気通信連合（ITU）やアジア・太平洋電気通信共同体（APT）等の各種活動に対応して、日本と世界とを結ぶ役割を担ってこられました。この50年を振り返りますと、オイルショック、プラザ合意後の円高、バブル崩壊、アジア通貨危機、リーマンショックや東日本大震災など、経済及び社会の厳しい環境変化もありましたが、一方では、様々な分野で新たなサービスやビジネスが登場・普及するとともに、世の中の仕組みや人々のマインド・行動様式が大きく変化してまいりました。その大きな要因の一つとして、インターネットや携帯電話を中心とするICTの進化があります。

貴協会会員の皆様は、通信放送に係る重要な社会インフラ設備や幅広い産業へサービスを提供する重要な産業の担い手として、時代の変化に機動的に対応しながら活発な事業活動を展開され、社会基盤と産業基盤の整備に多大な貢献を残されました。

さて、我が国や世界が直面する新型コロナウイルス感染症の流行を契機として、ICTは、より一層人間の生存や経済活動の維持に必要な不可欠な技術と認識されるようになりました。これまでデジタル化が進まなかった領域にもデジタル化の波が押し寄せています。また、デジタル化・リモート化を最大限に活用することにより、個人、産業、社会と

いったあらゆるレベルにおいて変革が生まれ、新たな価値の創造へとつながっていくことも指摘されています。こうしたデジタル化に対する世界的なニーズは高まるばかりです。例えば、2020年3月に日本での商用サービスが始まった5Gについて、世界各国の契約数は急激に伸びており、今後の全世界における5Gサービスの市場規模は、2025年には70兆円を超え、2030年には150兆円を超えるとの予測もあります。

総務省では、世界のデジタル変革への貢献に向け、5G、光海底ケーブルなどのインフラシステムの海外展開を図るとともに、AIの利用やデータの流通に関する国際的な共通認識の醸成を進めています。また、ポストコロナを見据えた産業競争力の向上に向け、5Gのその先である「Beyond 5G」を見据えた技術開発に、官民の英知を結集して取り組んでいます。さらに、知的財産の獲得や研究開発の国際標準化を戦略的に進めています。これらの取組みを通して、グローバル市場で戦い、また、ITU等の国際的な舞台で活動される皆様を後押ししてゆきます。

こうした中で、貴協会会員の皆様の御活躍が期待される領域は広く、最新の技術や知見を取り入れつつ、新たな価値の創出や事業変革を成し遂げることが求められています。今後とも、貴協会のリーダーシップの下、一層の御尽力を頂くことを期待しています。

最後になりますが、今回の創立50周年を記念して受賞された皆様のご功績に対して心から敬意を表するとともに、日本ITU協会及びその活動を支える会員の皆様、そして日本の情報通信業界の一層の発展を心から祈念をして、お祝いの言葉とさせていただきます。創立50周年、誠にありがとうございます。

日本ITU協会 50年のあゆみ

2021年7月28日現在
【1971年～1990年】

年次	日本ITU協会	ITU (国際電気通信連合) 太字：当協会が日本事務局支援や出展支援などを実施したイベント	
1971	<ul style="list-style-type: none"> 財団法人日本ITU協会創立 港区麻布飯倉町(現港区麻布台)に事務所を開設 八藤 東福 理事長就任 ITUクラブを開設 機関誌「国際電気通信連合と日本」創刊 機関誌「ITU研究」創刊  	 <ul style="list-style-type: none"> CCITT (現ITU-T) 研究会開始 ITU憲章化研究会開始 (～1973年) 放送衛星研究会開始 (～2000年) プラン委員会研究会開始 (～1986年) インテルサット恒久協定研究会開始 (～1972年) 講演会 (～2000年) 	<ul style="list-style-type: none"> WARC-71 (ジュネーブ) 世界テレコム71 (ジュネーブ) ※初開催
1972	<ul style="list-style-type: none"> 日本ITU協会賞を新設 	<ul style="list-style-type: none"> ITU業務セミナー開始 CCIR (現ITU-R) 研究会開始 	<ul style="list-style-type: none"> CCITT第5回総会 (ジュネーブ)
1973	<ul style="list-style-type: none"> 第1回日本ITU協会賞を贈呈 ITU本部に緞錦壁掛「白梅図、紅葉図 (8.0m×3.6m)」を寄贈 	<ul style="list-style-type: none"> パネル討論会開始 (～1989年) 	<ul style="list-style-type: none"> PP (マラガ・トレモリノス)
1974		<ul style="list-style-type: none"> ITU基本問題研究会開始 (～2011年) 特別研究会開始 (～1986年) 	<ul style="list-style-type: none"> CCIR第13回総会 (ジュネーブ)
1975			<ul style="list-style-type: none"> 世界テレコム75 (ジュネーブ)
1976	<ul style="list-style-type: none"> ITU年表 (日本ITU協会創立5周年を記念して) 発行 		<ul style="list-style-type: none"> CCITT第6回総会 (ジュネーブ)
1977			
1978			<ul style="list-style-type: none"> CCIR14回総会 (京都)
1979	<ul style="list-style-type: none"> ITU小史 (日本のITU加盟100年を記念して) 発行 		<ul style="list-style-type: none"> WARC-79 (ジュネーブ) 世界テレコム79 (ジュネーブ)
1980			<ul style="list-style-type: none"> CCITT第7回総会 (ジュネーブ)
1981			
1982	<ul style="list-style-type: none"> CCITT勧告 (Yellow Book) 和訳本発行 	 	<ul style="list-style-type: none"> PP (ナイロビ) CCIR15回総会 (ジュネーブ)
1983	<ul style="list-style-type: none"> 内閣総理大臣賞 (世界コミュニケーション年にあたり) 受賞 港区西新橋 渡辺美術ビルへ移転 		<ul style="list-style-type: none"> 世界テレコム83 (ジュネーブ)
1984			<ul style="list-style-type: none"> CCITT第8回総会 (マラガ・トレモリノス)
1985	<ul style="list-style-type: none"> (財) アジア電気通信技術協力機構 (ATO) 設立 		<ul style="list-style-type: none"> Missing Link報告書 世界テレコムコミュニケーションフォーラム (ワシントンDC) WTDC (アルーシャ)
1986			<ul style="list-style-type: none"> CCIR第16回総会 (ドゥブロヴニク)
1987	<ul style="list-style-type: none"> (財) 世界通信開発機構 (WORC-J) 設立 	<ul style="list-style-type: none"> 国際協力研究会開始 (～2000年) 	<ul style="list-style-type: none"> 世界テレコム87 (ジュネーブ)
1988	<ul style="list-style-type: none"> WORC-JにATOが合併 WORC-J地域協力委員会設置 澤田 茂生 理事長就任 WORC-Jにて機関誌「WORC-JAPANジャーナル」創刊 (季刊) WORC-JがITU電気通信開発センター (CTD) より要請の技術協力プロジェクト (タンザニア) に専門家を派遣 CCITT IX総会、WATTC'88 (メルボルン) 調査団派遣 港区西新橋 日本ケミカルビルへ移転 	<ul style="list-style-type: none"> ITUセミナー (専門コース) 開始 国際協力推進セミナー開始  	<ul style="list-style-type: none"> CCITT第9回総会 (メルボルン) WATTC (メルボルン)
1989	<ul style="list-style-type: none"> 特定公益増進法人に指定 韓国通信技術協会 (TTA) との相互協力に関する覚書締結 英文誌「New Breeze」創刊 	<ul style="list-style-type: none"> テレコム東京フォーラム開始 「APT光ファイバー技術特別研修コース」(APT研修) 開始 	<ul style="list-style-type: none"> PP (ニース) ※三浦 信氏 国際周波数登録委員会 (IFRB) 委員に当選 ITU-COM89 (ジュネーブ)
1990	<ul style="list-style-type: none"> CCIR総会・東欧電気通信事情調査団派遣、ITU125周年記念式典に参加・桜を植樹 ITU創立125周年を記念して桜の苗木20本と会議机をITU本部へ寄贈 WORC-J ITU電気通信開発センター (CTD) 資金支援テレホンカード発行益金を寄付 塩谷 稔 理事長就任 WORC-J 国際協力賞新設 	 	<ul style="list-style-type: none"> CCIR第17回総会 (デュッセルドルフ) CCITT SG XVIII 松山会合

年次	日本ITU協会	ITU (国際電気通信連合) 太字：当協会が日本事務局支援や出展支援などを実施したイベント
1991	<ul style="list-style-type: none"> ITU活動の貢献に対して、ITUから記念盾 機関誌「国際電気通信連合と日本」を「ITUジャーナル」に名称変更 世界テレコム91ブックフェアに出展 機関誌「ITU研究」に「明日のITU：改革に向けて（ハイレベル委員会）邦訳」を掲載。 	<ul style="list-style-type: none"> JICA集団研修「ルーラル通信技術コース」(JICA研修)を開始 1991年 機関誌「国際電気通信連合と日本」を「ITUジャーナル」に名称変更 1994年 ワールドテレコム・ビジュアルデータ集発行
1992	<ul style="list-style-type: none"> (財)日本ITU協会と(財)世界通信開発機構(WORC-J)が合併し、(財)新日本ITU協会に再編 千代田区岩本町 共同ビルへ移転 	<ul style="list-style-type: none"> CCIR WP4s東京会合、WP9s神戸会合 世界テレコム91 (ジュネーブ) APP-92 (ジュネーブ) WARC-92 (マラガ・トレモリノス)
1993	<ul style="list-style-type: none"> ITU-T、ITU-R、ITU-D各セクターメンバーに加入 森本 哲夫 理事長就任 平成5年度「テレコム旬間」郵政大臣表彰受賞 機関誌「ITU研究」を「ITUジャーナル」に統合 第24回国際電波科学連合の京都総会にITUと合同で出版展示 	<ul style="list-style-type: none"> WTSC-93 (ヘルシンキ) RA-93、WRC-93 (ジュネーブ)
1994	<ul style="list-style-type: none"> アジアエレクトロニクス連盟(AEU)との合同巡回セミナーを初めてインド、スリランカ、インドネシアで実施 ワールドテレコム ビジュアルデータ集発行 	<ul style="list-style-type: none"> ITU-R研究会開始 「関西テレコムシンポジウム」開催 1994年 PP-94 (京都) PP-94 (京都) WTDC-94 (プエノスアイレス)
1995		<ul style="list-style-type: none"> RA-95、WRC-95 (ジュネーブ) 世界テレコム95 (ジュネーブ)
1996	<ul style="list-style-type: none"> 松野 春樹 理事長就任 ITUとの契約に基づく勧告コピーサービス開始 ホームページ開設 	<ul style="list-style-type: none"> WTSC-96 (ジュネーブ) WTPF-1996
1997		<ul style="list-style-type: none"> RA-97、WRC-97 (ジュネーブ) テレコムインタラクティブ (ジュネーブ)
1998	<ul style="list-style-type: none"> 五十嵐 三津雄 理事長就任 	<ul style="list-style-type: none"> PP-98 (ミネアポリス) ※内海善雄氏 ITU事務局局長に当選 WTDC-98 (パレッタ) WTPF-1998
1999	<ul style="list-style-type: none"> ITUモンブリアン・ビル落成を記念して、綴織タペストリー「凱風快晴」(通称：赤富士、2.8m×1.85m)をITU本部へ寄贈 	<ul style="list-style-type: none"> テレコム99+テレコム・インタラクティブ99 (ジュネーブ)
2000	<ul style="list-style-type: none"> (財)日本ITU協会に名称変更 品川 萬里 理事長就任 	<ul style="list-style-type: none"> RA-2000、WRC-2000 (イスタンブール) WTSA-2000 (モントリオール)
2001	<ul style="list-style-type: none"> 千代田区鍛冶町 神田KSビルへ移転 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル・オポチュニティ研究会開始(～2003年まで) ITUビジネスセミナー開始 WTPF-01
2002	<ul style="list-style-type: none"> 世界情報通信社会・電気通信日特別記念アマチュア無線局(8J1ITU)開設 米国ITU協会(USITUA)との相互協力に関する覚書締結 アーサー・C・クラーク新技術研究所(ACCIMT)との相互協力に関する覚書締結 ITU活動の貢献に対して世界電気通信日に感謝状を受領 谷 公士 理事長就任 	<ul style="list-style-type: none"> 国際会議実践セミナー開始 2002年 PP-02 (マラケシュ) WTDC-02 (イスタンブール) PP-02 (マラケシュ)
2003	<ul style="list-style-type: none"> 金澤 薫 理事長就任 	<ul style="list-style-type: none"> OSフォーラム開始 2003年 APG03-5 (東京) 2003年 WSIS-03 (ジュネーブ) 2003年 WSISアジア太平洋地域会合(東京) WSISアジア太平洋地域会合(東京) WSISアジア太平洋地域会合(東京)
2004		<ul style="list-style-type: none"> ITU-T局長Houlin Zhao氏来日、特別講演会開催 WTSA-04 (フロリアノポリス)
2005	<ul style="list-style-type: none"> これでわかるITU発行 松井 浩 理事長就任 	<ul style="list-style-type: none"> JICA集団研修「村落情報化基盤整備手法」を受託 2005年 WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」 WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」 WSIS-05 (チュニス)
2006	<ul style="list-style-type: none"> ITUジャーナルカラー化 	<ul style="list-style-type: none"> 2005年 これでわかるITU 2006年 WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」 2006年 PP-06 (アンタルヤ) WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」 WSIS-06 (アンタルヤ) WSIS-06 (アンタルヤ)
2007	<ul style="list-style-type: none"> 会員専用ページ開設 有富 寛一郎 理事長就任 	<ul style="list-style-type: none"> フォローアップセミナー開始 2007年 WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」 2007年 WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」 2007年 WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」 2007年 WSISテーマ別会合「東京コピキタス会議」
2008	<ul style="list-style-type: none"> ICTと気候変動に関する京都シンポジウム支援 	<ul style="list-style-type: none"> 2008年 ICTと気候変動に関する京都シンポジウム 2008年 WTSO-08(ヨハネスブルグ) 2008年 WTSO-08(ヨハネスブルグ) 2008年 WTSO-08(ヨハネスブルグ)
2009	<ul style="list-style-type: none"> 森 清 理事長就任 	<ul style="list-style-type: none"> 2009年 ICTと気候変動に関する京都シンポジウム 2009年 WTSO-09(ヨハネスブルグ) 2009年 WTSO-09(ヨハネスブルグ) 2009年 WTSO-09(ヨハネスブルグ)

年次	日本ITU協会		ITU (国際電気通信連合) 太字：当協会が日本事務局支援や出展支援などを実施したイベント
2010		・出張セミナー開始	・PP-10 (グアダハラ) ※伊藤 泰彦氏 無線通信規則委員会 (RRB) 委員に当選 ・WTDC-10 (ハイデラバード)
2011	・一般財団法人に移行	・政策 (現情報通信) 研究会開始	・世界テレコム (ジュネーブ)
2012	・鈴木 康雄 理事長就任 ・ITUジャーナル ウェブ発行一本化 ・新宿区新宿1丁目 BN御苑ビルへ移転	・ITU会合情報連絡会開始	・WTSA-12 (ドバイ) ・RA-12、WRC-12 (ジュネーブ) ・世界テレコム (ドバイ) ・WCIT-12 (ドバイ)
2013	・小笠原 倫明 理事長就任	・ITU-R 国際会議体験 ハイレベルセミナー開始 ・ITU-T 国際会議体験 ハイレベルセミナー開始 ・世界テレコム&ミャンマー 情報通信動向調査	・ITU-T SG3 RG-AO (東京) ・ITU Kaleidoscope (京都) ・WP5D (札幌) ・世界テレコム (バンコク) ・WTPF-13
2014	・ITU-APT Foundation of India (IAFI) との協力覚書締結	・政策研究会を見直し、 情報通信研究会開始	・WTDC-14 (ドバイ) ・WSIS+10ハイレベルイベント2014 (ジュネーブ) ・APT WDMC-5 (東京) ・ITU-T SG16 (札幌) ・PP-14 (プサン) ・世界テレコム (ドーハ)
2015	・2015年 国際交渉パフォーマティブ・セミナー開始 ・2015年 WTIS (世界電気通信/ICT指標シンポジウム) (広島)	・国際交渉テクニックセミナー開始 ・国際交渉パフォーマティブ・セミナー開始	・ITU創立150周年 ・AWG-18 (京都) ・WSISフォーラム2015 (ジュネーブ) ・RA-15、WRC-15 (ジュネーブ) ・世界テレコム (ブダペスト) ・WTIS-15 (広島：12団体展示実施)
2016		・国際標準化の戦略的 ビジネス活用セミナー開催	・PRF-16 (東京) ・WTSA-16 (ヤスミン・ハマメット) ・世界テレコム (バンコク)
2017	・第19回国際宇宙電波監視会合 (ISRMM-19) 支援		・世界テレコム (プサン) ・WTDC-17 (ブエノスアイレス)
2018	・福岡 徹 理事長就任		・世界テレコム (ダーバン) ・WP5D (福岡：5団体展示実施) ・PP-18 (ドバイ) ※橋本 明氏 無線通信規則委員会 (RRB) 委員に当選
2019	・南 俊行 理事長就任		・APG19-5 (東京：8団体展示実施) ・世界テレコム (ブダペスト) ・RA-19、WRC-19 (シャルム・エル・シェイク)
2020	・テレワーク開始 (4月～) ・新型コロナウイルス感染症拡大により世界情報社会・電気通信日のつどい式典の延期、開催 (5月→10月) ・山川 鉄郎 理事長就任 ・Beyond5Gキックオフシンポジウム (オンライン) 運営・配信	・ITU会合情報連絡会 (オンライン：ジュネーブ、バンコク、カリフォルニアからも参加)	・デジタルワールド (ハノイ) (オンライン) ・WTSA-20 (ハイデラバード) 延期
2021	・デジタル海外展開プラットフォームJPD3 (オンライン) 支援 ・総務省MRA国際ワークショップ2021 (オンライン) 支援 ・日本ITU協会創立50周年を記念して式典を挙行	◆これまでの研究会開催数 (2021年8月末時点)：2,177回 ◆これまでの定期出版物発行数 (2021年8月末時点) ・「国際電気通信連合と日本」：232号 ・「ITU研究」：265号 ・「ITUジャーナル」：368号 (前身の「国際電気通信連合と日本」から含めると600号) ・「New Breeze」：131号	・デジタルワールド (ハノイ) (オンライン) ・WTDC-21 (アジスアベバ) 延期

※1 ITU協会内の調査データ等を基に作成

※2 略号

WARC：World Administrative Radio Conference (世界無線通信主管行会議)
CCITT：Consultative Committee on International Telegraphy and Telephony (国際電気通信諮問委員会)
PP：Plenipotentiary Conference (全権委員会議)
CCIR：Consultative Committee on International Radio (国際無線通信諮問委員会)
WTDC：World Telecommunication Development Conference (世界電気通信開発会議)
WATT：World Administrative Telegraph and Telephone Conference (世界電気通信主管行会議)
APP：Additional Plenipotentiary Conference (追加全権委員会議)
WTSC：World Telecommunication Standardization Conference (世界電気通信標準化会議)
RA：Radiocommunication Assembly (無線通信総会)

WRC：World Radiocommunication Conference (世界無線通信会議)
WTPF：World Telecommunication/ICT Policy Forum (世界電気通信政策フォーラム)
WTSA：World Telecommunication Standardization Assembly (世界電気通信標準化総会)
APG：APT Conference Preparatory Group (APT準備会合)
WSIS：World Summit on the Information Society (世界情報社会サミット)
IGF：Internet Governance Forum (インターネットガバナンスフォーラム)
WCIT：World Conference on International Telecommunications (世界国際電気通信会議)
APT WDMC：APT Workshop on Disaster Management/Communications (APT災害管理/通信ワークショップ)
AWG：APT Wireless Group (APT無線グループ)
WTIS：World Telecommunication/ICT Indicators Symposium (世界電気通信/ICT指標シンポジウム)
PRF：APT Policy and Regulatory Forum (APT政策・規制フォーラム)
ISRMM：International Space Radio Monitoring Meeting (国際宇宙電波監視会合)

歴代理事長からのメッセージ



在任期間：
1998年7月～2000年6月
現：公益財団法人大川情報通信基金
会長

い が ら し み つ お
五十嵐 三津雄

コロナ禍にあって、テレワークやリモート会議等、情報通信の果す役割はますます大きくなり、産業・社会のど真ん中に座っている。我が国は、1985年にいわゆる“電気通信自由化法”が施行され、情報通信革命の時代を迎えた。

1990年代はバブル崩壊、“失われた10年”とも言われる景気後退の時期となった。しかしその中にあって、情報通信産業、とりわけ携帯電話の普及は、我が国の経済に大きく貢献することとなった。

1994年には、ITU全権委員会議が京都で開かれ、その長丁場の議長を内海善雄氏（当時郵政省国際部長）が務められた。

それから2年経ち（私の郵政事務次官当時）、長谷川憲正郵政省国際部長（当時）より、アメリカ等の情報誌等から、次期ITU事務総局長に内海氏が立候補すれば最有力との情報もたらされた。京都全権委員会議での議長としての采配振りが高く評価されたからであった。

ご本人の意向を確認することから始めなければならないの

は言うまでもない。内海氏の承諾を得た後、NTTをはじめ関係者の支援承認を取り付けることができたので、初のITU事務総局長選挙へと走り出した。

前半は楠田修司郵政審議官（当時）、後半は長谷川憲正郵政審議官（当時）がヘッドクォーターとなり、自らも各国に出かけ、働きかけを強めていった。

内海氏自身も世界中を飛び回ったのは言うまでもない。

そして、1998年のアメリカのミネアポリスにおけるITU全権委員会議の選挙で、圧勝して当選を果たした。

日本の情報通信史の中で光り輝く“快挙”であった。

私は、この会議に日本ITU協会の団長として出かけることになっていた。しかし、出発前日に「突発性網膜剥離」と診断され、早急に手術しなければ失明すると言われ、ミネアポリスでの結果を現地で直接見る機会を失ってしまったが、本当に素晴らしい快挙であった。

内海事務総局長は、8年間の任期を全うし、国際社会にその名を轟かせたと同時に、日本からそのような人材を輩出したということは、私たち情報通信に携わる者にとって大きな誇りとなっている。

また、日本ITU協会の50年の歴史にも金字塔を打ち立ててくれたことに深く感謝申し上げます。

同時に、ITU事務総局長を輩出することに大きく貢献した日本ITU協会が、今後ますます発展することを期待して止みません。（顔写真は在任当時）

歴代理事長からのメッセージ



在任期間：
2000年7月～2002年6月
現：郡山市長

し な が わ ま さ と
品川 萬里

祝日本ITU協会50周年記念。祝詞言上の機会を賜り光榮至極に存じます。世紀の変わり目に理事長を拝命致しハヤ20年。digital divideとdigital dividendが世界的に語られた年に理事長拝命。そしてこの度はdigital transformation略してDXの時代に。

今は一地方自治体の長として、20年前の第1次digital革命に続く第2次digital革命の渦中にあります。

毎月ITUジャーナルは興味津々です。GAFAsは7レイヤーと言えば1番上のレイヤー役。最下位レイヤーから6レイヤーまでの標準化あつてのGAFAs。海底ケーブル、通信衛星があつてのGAFAs。それが今やGAFAsが海底ケーブルを敷

設志望とか。ITUの顔触れも様変わり？ それともITU throughでde facto standard ITUが出来るか？ 興味津々。従ってITU協会の会員もplatform派とapplication派が協奏になるか？ と矢張り興味津々。

山川鉄郎理事長は当に時代の子として理事長職を果たされる事と期待申し上げます。国内もtrafficはケータイが固定を上回っておる由。国際trafficもケータイ間が固定間を上回っていきましょう。かく言う私も市役所内は固定、庁外は殆どスマホ、ガラケー二刀流。

スマホ史からはスマホがplatformを誘導。シッポが象を振り回すの図が、iPhoneとAndroidがplatformをleadするの図、がICT New normal。

端末は既に交換機、が自治体の長の実感です。土木の世界はi-constructionへ。ICTもi-CT? ITUもi-TU?

スマホが市役所の窓口になる日も遠くはありません。自動運転車は自動車がパケット通信のパケット化と同義。

かくして世界はアリスの不思議の国化。銀河鉄道999のheroは鉄郎様と記憶。山川鉄郎理事長の協会操縦の宜しきを祈念し祝詞と致します。（顔写真は在任当時）



歴代理事長からのメッセージ



在任期間：
2007年8月～2009年7月

ありとみ かんいちろう
有富 寛一郎

日本ITU協会がこの9月に50周年を迎えられるとのこと。おめでとうございます。

私が理事長に就任したのは、2007年8月。ちょうど2006年11月にトルコのアンタルヤで開催された「ITU全権委員会」でトゥーレ新事務総局長等が選出され、翌年1月から新しいITUの体制がスタートした年でした。ITU協会として、トゥーレ事務総局長の訪日をはじめとして、新体制と我が国との間でどのような橋渡しができるかが大きな課題でした。

また、2008年には、ITUの標準化活動を支えるため、新たにSG議長等が選出された「世界電気通信標準化総会(WTSA-08)」が、南アフリカのヨハネスブルグで開催され、参加する機会を得ました。ただ、安全対策の観点から会議が開催された会場の中から街中に一切出ることができず、最

初で最後であろうにもかかわらず、南アフリカの文化等に直接触れることができなかったことは今でも心残りです。

2008年9月には、タイで「テレコムアジア」が開催された機会に、調査団を組織し、その団長として、同会議への参加、APTへの表敬訪問に加え、ベトナム、カンボジアの電気通信主管庁等を訪問させていただく機会も得ました。立ち寄った世界遺産であるアンコールワット遺跡のすばらしさは、今でも鮮明に思い出します。

一番頭を痛めたのは、日本ITU協会の新しい役割を模索する中での「公益法人改革」への対応でした。公益法人がよいか、一般法人がよいか、財務状況をどのように試算すればよいか等々、担当の方々には大変なご苦労をおかけしたかと思えます。

理事長職にあった2年間は、テレフォニーからインターネットへの移行の初期段階に当たり、また、京都で開催されたITU「ICTと気候変動に関するシンポジウム」に代表されるような、ITUの新たな役割が模索されはじめた時期でもありました。

今後、ICT環境は、アプリケーションやコンテンツレイヤー中心の産業構造に一層大きく進化することは必至です。ITU及び日本ITU協会は、その“レゾナドール”を新しい環境変化の中でどう再構築していけばよいか、以前にも増して難しくなると思えます。一層のご尽力を期待しております。(顔写真は在任当時)

歴代理事長からのメッセージ



在任期間：
2009年8月～2012年6月

もり きよし
森 清

ITU協会創立50周年、誠におめでとうございます。

私は、2009年8月から2012年6月まで理事長を務めました。他職との兼務で、週に一回完全無給無手当の勤務でしたが、果たして十分な職責を果たせたかどうか、内心忸怩たるものがあります。

逼迫する協会の財政事情を憂慮して、経費節減のため、神田から新宿への移転を決めたり、月刊誌の印刷物刊行をネットオンリーに切り替えたりしました。しかし、総務省への入札に当たっては高品質低価格を極力追求しました。一般財団法人への移行も丁度その頃でした。

東日本大震災直後の「世界情報社会・電気通信日のつどい」式典をどのように挙げるかにも頭を悩ませ、講演を取り止めて講師予定の方にはご迷惑をお掛けしたこともありました。

ジュネーブのITU本部には、何と理事長になって初めて訪れましたが、日本のITU協会からの植樹や富嶽百景の織物の寄贈装飾を見て、また本部で働く日本人スタッフの方にもお会いして、多くの日本人の努力の蓄積が連続と息づいていることを実感しました。

また、当時世の中的に話題となっていた職場のパワハラ、セクハラ問題についての職場研修を行ったのも懐かしい思い出です。

当時は、基本的には今でも同じですが、インターネットや携帯電話の普及進展が著しい時期でした。しかしAIやDXも未だであり、携帯電話も3Gの時代でしたし、SNSも黎明期でしたし、サイバーセキュリティも取組み初期の段階でした。ただ、まだ日本のテレコムが世界に対して存在感を喪失していない時代ではあったように思います。

現在コロナ禍の日本では、薬事的各種対応の遅れやら、縦割の弊害克服のためのデジタル庁の創設等が課題となっています。ICTが環境問題をはじめこうした諸問題の解決、克服にますます有効になっていくことは明らかですので、今後ともそれに向けて貢献し続ける日本ITU協会たらんことを大いに期待したいと思えます。(顔写真は在任当時)

歴代理事長からのメッセージ

在任期間：
2012年6月～2013年11月

すずき やすお
鈴木 康雄

通信の世界的有識者として曾山元郵政次官も加わった委員会の報告書、Missing Linkは、途上国の通信の発展が途上国のためだけではなく先進国にとっても大きな利益になるものであって、全世界で国際協力を進めなければならない、と初めて、ITUでも国際協力の重要性を説いたが、それでもITUは先進国クラブの印象が拭えなかった。それは組織の発生の経緯からしても、標準化が何よりも重要であり、そうした議論に参加できるのは通信を使いこなし、新しい通信方式を提案できる先進国だけだったからやむを得ないことだったであろう。

我が国のITUへの貢献はこれまでも多くの発表がなされているが、その多くは、かつては国策企業たるNTT、KDDと公共放送であるNHKが組織的、人的貢献の多くを担って

きており、最も受益するであろう製造業界は、人事ローテーションの都合もあり貢献が大きいとは言えず、私が郵政省・総務省時代にもメーカートップをお願いしたことがあったが、その効果があったとは言えない状況だった。その後、国際的な標準化団体は分野別に、あるいは重疊的に多数存在することになり、それぞれの分野で活動しているが、今でもITUはその中心としての重要性を保っていると感じている。

私は1981年から在インドネシア日本国大使館に勤務し、帰国後には日本ITU協会の国際協力研究会にも参加したが、盛況とは言えない状況だった。これは当時の、先進国クラブ的な性格を反映したものと思われる。その後、協会はJICAの研修事業も行うようになった。

数年前に当協会に勤務したおり、経営的にはきつく職員に苦勞をかけたが、日本ITU協会賞選考委員の賛同を得て、電気通信を含む幅広い活躍をされた方を表彰させていただくと特別賞を設け、最初の表彰は開発経済学の渡辺利夫拓殖大学学長に受けていただいた。今後も経費的には困難もあろうが、そちらの方面でも貢献され、存在を示されることを切望する。

歴代理事長からのメッセージ



在任期間：
2013年12月～2018年6月
現：一般財団法人マルチメディア
振興センター 理事長

おがさわら みちあき
小笠原 倫明

日本ITU協会の創立50周年おめでとうございます。私は、2013年暮れから4年半、多くの方々のご支援をいただき、何とか理事長職を務めることができました。

就任の翌年2014年10月、韓国・釜山の全権委員会議で、伊藤泰彦様がRRB委員にトップ再選（翌年に議長）されたのは誠に喜ばしい出来事でした。同時に、事務総局長とITU-T局長がアジア2国で占められるのを目の前にし、「日本も再びこうしたポストにチャレンジしなければ」と感じたことを覚えています。

翌2015年はITU創立150周年。3月に就任直後のジャオ事務総局長が来日し、会員の皆様と懇談。5月15日の「つどい」では、事務総局長からのビデオメッセージの後に、小尾敏男先生（元ITU事務総局長特別代表）が総務大臣賞受賞。翌々日ジュネーブでは、坂村健先生がビル・ゲイツ氏ほかと共にITU150周年

記念賞で表彰されました。加えて10月～11月にジュネーブでITU RA（無線通信総会）/WRC（世界無線通信会議）。11月～12月の広島WTIS会合（世界電気通信/ICT指標シンポジウム）では協会職員の多くが広島へ出張、と大忙しの1年でした。

当時の協会の新しい試みを紹介すると、ブダペストで開催されたITUテレコムワールド2015に、日本のSME（Small and Medium-size Enterprise）が初めて出展。ITU本部から賞を頂きました。同じ年開始の「パフォーマティブ・セミナー」では、会員企業の若手社員の方々が外国人俳優相手にロールプレイ。標準化会合等での交渉能力を高める目的ですが、何れも協会職員の頑張りにより、理事長は感心するのみでした。

日本ITU協会賞選考委員会の安田浩・関祥行両委員長には大変お世話になりました。「女性に受賞の機会を」「メーカーにもご配慮を」「海外の方にも」等をお願いを受け止めていただくとともに、委員会での鮮やかなお裁きには毎回感服致しました。

最後に、「世界情報社会・電気通信日のつどい」式典後の懇親会のあの雰囲気は忘れられません。プロクラリネットプレイヤーの松平恒和様（元ITU-T SG3議長）には、いつもノーギャラでの出演恐縮でした。再開を切に祈ります。賛助会員や協会事務局の皆様、本当にありがとうございました。（顔写真は在任当時）



歴代理事長からのメッセージ



在任期間：
2018年6月～2019年11月

ふくおか とおる
福岡 徹

日本ITU協会設立50周年、設立以来の長年にわたり協会活動を支えていただきました皆様とともに、祝意を表します。そして、短期間ではありますが、協会の運営に携わった者として、会員企業・団体の皆様、ITUやAPT等において標準化活動等にご尽力いただいた皆様、総務省、協会の歴代評議員・理事・職員の皆様に、心より感謝を申し上げます。

2017年12月から2年間の任期での最大のイベントはWRC19で、エジプト有数のリゾート地、シャルム・エル・シェイクでの開催でした。警備が厳重で、協会からの現地派遣者

にはいろいろ苦勞をしてもらいましたが、5Gをはじめとした成果に日本政府事務局への支援を通じて貢献できたかと思っています。

当時強く感じたことは、ITU等の活動に深く携わり、貢献いただいている方は、ともすれば企業内でその活躍が見えにくく、しっかり評価されているのか、との不安です。企業の幹部の方にお会いした時はいつも、「飯の種で使っている電波は勝手に降ってくるものではなく（物理的には降ってきますが）、御社の誰々さんの日頃の努力があって周波数が確保でき、干渉なく使えるのです。よく見てください。」と訴えていました。

この意味でも、毎年「つどいの日」での表彰は有意義で、残念ながら昨年から実開催ができなくなりましたが、絶やさず続けていってほしいと思っています。

私ごとながら、現在電波ビジネスに携わり、干渉回避にも苦勞するとともに周波数調整の重要性を実感しています。関係の皆様には、引き続きITU等の活動とそれを支える日本ITU協会へのご支援のほど、よろしく願い申し上げ、50周年への寄稿といたします。（顔写真は在任当時）

歴代理事長からのメッセージ



在任期間：
2019年12月～2020年11月
現：株式会社NTTドコモ 常務執行役員

みなみ としゆき
南 俊行

ITUは国際機関として最も古い歴史を有するだけでなく、時代や技術の変化に柔軟に適応してきました。私企業が参加できる唯一の国際機関としてその活動領域を広げ、障がい者団体と一緒に電話リレーサービスの標準化に取り組んだり、コロナ禍にあってはICTを活用した感染対策を一早くとりまとめ世界に向けて発信をするなど、今なお進化を続けています。デファクト標準が幅を利かすインターネットの世界において、ITUが主導するデジュール標準が色褪せない理由もそこにあります。

日本ITU協会は、こうしたITUの活動を支え、日本

UNESCO協会や日本ILO協会（解散後NPO法人として存続）と並んで国連専門機関の国内受け皿として、長年にわたりその理念と国際精神の普及啓発に努めてこられました。役所に勤めて初めての仕事がITUとの連絡調整であり、協会のオフィスを訪れ、八藤初代理事長からご薫陶いただいたことを今でも鮮明に覚えています。

私が理事長を拝命した1年はコロナ禍との闘いの連続で、電気通信日のつどいの開催延期や研究会活動の相次ぐ中止やオンライン開催への切替を余儀なくされました。それでも関係者の皆様のご協力もあり、新しい「非日常」への取組みの第一歩が印されたと思います。

今後、リアルな国際会議招致をサポートするだけでなく、世界が求めるグリーン化やデジタル化という新しい変化のうねりに敏感に対応し、CSRやSDGs達成を求める声の高まりに耳を傾け、協会が日本国政府と一体となってITUに变革を促していく先頭に立たれることを期待します。次なる75周年という高みに向けて、変わらぬ情熱をもって会員の皆様とともにたゆまぬ努力をされることを切に願っています。（顔写真は在任当時）